

京都府立総合資料館

■京都府立総合資料館の取り組み

今大会のポスター展示は、「Ⅰ：京都府立総合資料館の概要と京の記憶ライブラリ」「Ⅱ：新総合資料館に向けて」で構成した。

当館は、1963（昭和38）年の開館以来、変遷を経て現在では「京都に関する歴史・文化・産業・生活等の資料を総合的に収集・保存・展示し、調査研究など一般の利用に供する」施設と位置付けられている。また、約60万点の所蔵資料のうち、約3万7千点が国宝・重要文化財に指定されている。これらのより一層の情報発信のために、利用頻度が高い古文書・貴重書・公文書など約1万画像を

登載した「京の記憶ライブラリ」(<http://kyoto-shiryokan.jp/kyoto-memory/>)を2011年7月に公開したことを紹介した。また、現在当館では平成27年度の新館開設に向けて設計協議を進めている。この新館は京都府立大学文学部・附属図書館との併設で建設されるもので、同時に「国際京都学センター」の新設も予定されていることを紹介した。来場者からは、複合館としての特徴や新館構想について、様々な質問や意見をいただくことができた。

なお、展示担当者の御厚意により、全史料協東日本大震災臨時委員会のポスターも当館スペースに展示した。群馬県立文書館が準備した現地報告パネルや大会2日目の島田報告とも結果的に連動する展示となった。内容は現在も取り組んでいる岩手県陸前高田市の被災公文書の救援活動を中心としたもので、これにも多くの関心が寄せられた。

(福島幸宏)